

小室みえこ 12月議会レポート

市民ネットが 出した意見書

「子宮頸がん予防ワクチンの副反応被害者に対する救済に関する意見書」が採択されました。

- 1 情報を広く収集し、因果関係など徹底した検証と説明を行い、その結果を速やかに公表すること。
- 2 健康被害に対する相談体制の充実と治療方法の早期確立を図ること。
- 3 因果関係が明らかになった場合は定期接種以前の接種対象の被害者も含め国が補償すること。

公明党を除く多くの賛成を頂き可決しました。

現在野田市では、定期接種になった子宮頸がん予防ワクチンは一時見合わせの対応をとっています。が、定期接種は残ったままです。副反応の被害者のお話を伺うと最初の接種の時から異常を認識していても3回の接種で効果が期待できるワクチンと言われ、2度目3度目の接種を受けた方が多いことが分かりました。十分な情報を広く行き渡らせるためにも、多くの地方議会から意見書を提出し、国へ働きかける必要があります。

小室みえこの活動報告

意見書提出のための情報収集



11/24 講師：東京医科大学総合研究所

西岡久寿樹さんのお話

(日本における線維筋痛症治療の第一人者)

HPVワクチンは「けいがん予防」のために臨床応用されているが、その有効性について確実な効果は国際的にも確立されていない。副反応について、フランスでは安全性について検討が行われ、デンマークでは副反応が発症し大きな社会問題となっていることが判明。

西岡先生の研究チームの診察した副反応患者の発症の平均は8.8ヶ月後。厚生省が発表している報告書には全身疼痛、歩行困難、高次脳機能障害などの中枢神経系、睡眠障害、月経異常など記載されているにも関わらず副反応から除外していた。国がワクチン副反応の実態調査への対応を誤るとワクチン行政全体への信頼を失う可能性もあり危機的な状況に置かれている。公費助成対象年齢の少女が多数を占めることから国の将来を考える上で重大な損失を生む可能性が強いと思われる。早急な対策が必要である。

▽衆議院会館前にて



11/11

自治体立憲ネットワークの集会及びその後、市ネットの仲間と合流して国会包囲網に参加。

▽福嶋浩彦さんの基調講演



11/15

2015年統一地方選に向け、市ネットの政策と候補予定を発表。

▽公開プレゼン講評の様子



11/20

市民ネットワーク千葉県が主催する元気ファンドの運営委員として携わる。応募のあった市民団体の活動を聞き取る(県内は訪問、県外は電話)。市民団体が行うプレゼンテーションの仕方からも学ぶことが多く、様々な活動から新たな課題の発見もあった。震災支援の団体、市民事業、市民活動に取り組む6団体への助成を決定した。